

平成 27 年 8 月 12 日

豊川市長 山 脇 実 殿

豊川市総合計画審議会
会長 小 野 喜 明

第 6 次豊川市総合計画について（答申）

平成 26 年 10 月 30 日付け豊企第 380 号で諮問のあった、第 6 次豊川市総合計画の原案について慎重に審議した結果、下記の意見を付して、別紙のとおり答申します。

記

1 施策の展開について

本計画の進捗にあたっては、次の点に留意して施策を展開されたい。

(1) まちづくりの基本方針と各施策の関連性

審議会では、まちづくりの基本方針の具体性を明確にする方法について議論をし、基本計画に新たな章を設け「まちづくりの基本方針と各施策の関連性」を明記することとした。

今後の取組みにおいては、少子高齢化の進行や人口減少への的確な対応を図るため、これらの関連性を捉えながら各施策を展開されたい。

(2) 取組み間の連携

審議会では、各行政分野や異なる実施主体の取組みは、互いに関係しているという観点で議論をし、基本計画の行政分野別計画の冒頭に、「政策、施策間の連携」と「国、県との連携」について方向性を明記することとした。

今後の取組みにおいては、本計画における施策の位置づけにとらわれることなく、取組み間の積極的な連携を図ることで、各施策の効果が高められたい。

(3) 市民との協働について

審議会では、昨年度に実施された本計画策定のための団体アンケートやまちづくり市民ヒアリング、まちづくり中学生会議における意見を念頭におきながら議論をした。

今後の取組みにおいても、これらの意見を大切にするとともに、市民や事業者の声を取り入れた市民協働の視点を強く意識し、施策を展開されたい。

2 目標指標の設定について

審議会では、第5次総合計画で初めて取り入れた目標指標の実績値を現況として捉えながら議論をした。また、第5次総合計画では、施策ごとに設定する代表的な目標指標と実現手段の相関が弱かったことから、本計画では、実現手段ごとに設定することとした目標指標の内容についても議論をした。

今後の取組みにおいては、この目標指標を各実現手段の成果を測る目安とし、実施計画における評価と改善を繰り返しながら、各事業の効果を高められたい。

3 市民への情報発信と説明について

審議会では、総合計画が市民目線を大切にし、分かりやすさに配慮されているかを確認しながら議論をした。

本計画の内容については、多くの市民に知っていただき、理解いただけるよう、積極的な情報発信と丁寧な説明に努められたい。

4 社会・経済情勢を捉えた対応について

審議会では、少子高齢化の進行と人口減少への的確な対応を強く意識しながら議論をし、様々な提案をした。

本計画の期間である10年間においても、社会・経済情勢が変化していくことが想定されるため、国が定める合計特殊出生率などの目標にとらわれることなく、本計画で定める総人口の目標を超えられるような新たな取組みを絶えず模索し、基本計画の見直しや実施計画に反映されたい。